にわうるし

柴田学園報
第12号（年２回発行）
題字：吉澤秀香

□発行　学校法人柴田学園　〒036-8503　青森県弘前市上瓦ヶ町25番地　☎0172-32-6151

東北女子短期大学　保育科２年生が「保育実践演習」で劇・ミュージカルに挑戦。12 月 24 日の学内発表会に招待された子ども達は「トイ・ストーリー（写真）」の知っているキャラクターが登場するたびに歓声をあげ、おもちゃの世界に引き込まれていました。

コミュニケーション能力

東北女子短期大学
学長　今村　吉彦

『保育・教職実践演習』は保育士や教員として求められる資質・能力の最終確認（学びの軌跡の集大成）と位置付けられています。全国の養成校では、その達成に向けたさまざまな取り組みが行われており、独自性を高めているようです。本学保育科では、劇・ミュージカルに取り込み、演劇からのアプローチにより社会性や対人関係能力を強化する目的で行っております。

企業が求める人材で最も必要とされている能力は「コミュニケーション能力」であると言われています。現在この言葉は、人に自分の考えを伝えることとされていますが、ラテン語の語源で捉えると「コミューン」や「コミュニティ」などに含まれる「共有する」という意味が重要になってきます。つまり、コミュニケーションとは一方的な伝達を表すものでなく、分かち合い、共有することが大切な双方向のものであることを示しています。

以前、この欄に「人類の祖先であるホモサピエンスが雑食性であったがためにヒト属の中で唯一生き残った」と書きましたが、それ以外にも喉仏の構造から言葉を自由に操ることができ、その能力（危機への共通認識）にも助けられたことが研究によって明らかにされています。言い換えれば、人間社会は言葉によって行動を決定し、言葉によって互いの考えや思いを理解・感受し、言葉によって実行を確かなものにしながら発展してきたといえます。

そういう意味から考えると、この度の保育2年生による劇・ミュージカルは、10月から上演まですべてにわたって意見交換し、ぶつかり合い、方向を探って達成したコミュニケーションの〈結晶〉であると思います。

まわりに感動を与え、自らも仲間とのピュアな一体感に感動した体験は、きっとこれからの保育現場で生かされていくのではないでしょうか。

学園TODAY　　学園TODAY

東北女子大学 神無月祭実行委員会と学友会の皆さん

学校法人 柴田学園　INFORMATION

■柴田学園本部	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172-32-6151	E-mail shibahonbu1923@diamond.broba.cc	理事長　今村吉彦
■東北女子大学	〒036-8530 弘前市清原1丁目1番地16	☎0172-33-2289	E-mail zimu@tojo.ac.jp	学長　小澤　熹
■東北女子短期大学	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172-32-6151	E-mail gakumuka@toutan.ac.jp	学長　今村吉彦
■東北栄養専門学校	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172-32-6152	E-mail eisen@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■東北コンピュータ専門学校	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172-32-6154	E-mail comp@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■柴田女子高等学校	〒036-8154 弘前市豊原1丁目2番地1	☎0172-32-0135	E-mail kanri@shibajo.ed.jp	校長　森下好宣
■柴田幼稚園	〒036-8163 弘前市清原1丁目1番地1	☎0172-32-6518	E-mail shibayo1@jomon.ne.jp	園長　神　恵子

● 編集後記 ●

大寒に入ってようやく降り積もった雪！　危ぶまれていた全国高等学校スキー大会が予定通り大鰐で開催される見通しとなり、名門柴田女子高校の活躍に期待が高まっています。

さて本号も学園各校の活躍、エピソード、写真が満載で、年度後半の成長ぶり、充実ぶりが伝わってきました。12月には念願の短大講義棟の増築工事が始まり、調理室、視聴覚室のほかに学生が主体的に学習できるラーニングスペースを備える構想で進められています。新しい空間を使いこなす学生の発想が楽しみです。

学園報編集委員会

学園事業×地方創生推進事業

平成27年度 施設設備の充実を図る

東北女子大学
・動物実験室を新設し、自動制御装置付恒温恒湿エアコン設備を施工。同室に各種実験備品を導入。414講義室、美術演習室にエアコン設備施工。

東北女子短期大学
・50講義室、保健室にエアコン設備施工。給食管理実習室スチームコンベクションオーブン更新。学生昇降口玄関及び下足ロッカー更新。図書閲覧室テーブル・チェアー等更新。

東北栄養専門学校
・調理実習室にビルトインコンロ・オーブン3台更新。

東北コンピュータ専門学校
・液晶プロジェクター更新。

柴田女子高等学校
・大学旧校舎に調理実習室、調理準備室、更衣室、保健室、2階トイレを新設。

柴田幼稚園
・土俵マット、中型積木、大型遊具マルチパネル更新。

東北女子短期大学講義棟増築工事始まる 完成は平成28年9月を予定

地鎮祭で鍬入れする今村理事長

12月7日、初冬の凛とした空気の中、短期大学講義棟増築工事に先立ち地鎮祭が執り行われました。弘前八幡宮宮司による祝詞奏上、清めのお祓いの後、今村吉彦理事長により鍬（くわ）入れが行われ、参列した全員が工事の安全を祈願し、9月の完成に向け決意を新たにしました。

新講義棟は北大通りに面した2階建で、延べ床面積は約977㎡。1階に調理実習室、模擬保育室、アクティブラーニングスペースを備え、講義のほか多目的な活用が可能で地域交流も期待できるフロアです。2階は最新機器を配置した視聴覚室をメインに、間仕切り可能な大講義室、ピアノボックスを備え、充実した講義の実践が可能なフロアとなる予定で、完成に向け期待が高まります。

小澤熹学長が瑞宝中綬章を受章

平成27年秋の叙勲において、東北女子大学学長小澤熹先生が、瑞宝中綬章を受章されました。これは長年にわたって国内の教育政策や教育行政及び研究教育活動に尽力された功績が評価されたものです。先生は、東北大学教育学部を卒業後、東北女子短期大学講師、弘前大学教授を経て平成15年から東北女子大学に勤務され、平成18年から東北女子大学長として現在に至っています。先生は「今までやってきた仕事を認めていただき光栄。上司や同僚、教職員、学生達に恵まれた」と語っておられました。

花束を手に受章を喜ぶ小澤先生

先生は昭和51年から昨年までの39年間、体育学を基盤とした幼児・児童等の体力・運動能力の形成過程および表現運動に関わる教育研究活動を通して、多くの有為な人材を幼児・児童教育界に送りました。

退職後も大学で非常勤講師を続ける傍ら、学生課顧問として後進の育成に力を注いでおられます。

名誉教授の称号が贈られる

東北女子大学において9月16日、河内見地子先生に名誉教授の称号記が贈られました。

東北女子大学が弘前大学と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業で連携協定を結ぶ

弘前大学が平成27年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」に採択されたことを受け11月26日、青森国際ホテルにおいて弘前大学、東北女子大学を含む県内9大学1高専、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の5自治体が連携・協力に関する協定を締結しました。

「オール青森で取り組む『地域創生人材』育成・定着事業」と銘打った同事業は、前述した大学、高等専門学校、県、自治体の他にも、製造業、金融機関、医療機関、マスコミなどの企業、NPO法人107団体が参加予定で、大学と企業などがインターンシッププログラムを共同で開発するほか、地域をテーマにした授業科目の拡充、学生の起業支援、産学が連携し農産物、医療福祉機器、自然エネルギー、温泉などをテーマにした新商品・ビジネスの開発などに取り組みます。

青森県の課題である人口減少克服のため、「地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む人材」の育成を進め、学生の地域就職率の向上、雇用創出を目指します。（写真提供：青森COC＋推進機構）

エッセー ひととき

サードプレイス

東北女子短期大学　学務課長
准教授　小山尊徳

「サードプレイス」という言葉があります。

アメリカの社会学者、オルデンバーグは、都市生活者には家庭、学校や職場のほかに、柵から自身を解放し、心地良いひとときを感じることのできる第三の居場所《サードプレイス》が豊かな社会生活を営むために必要であると説いています。

このサードプレイスを企業理念の中核として取り入れ、世界最大手のコーヒーチェーンにまで成長したのがシアトル発祥のスターバックスです。

昨年、旧第八師団長官舎の外観はそのままに、レトロモダンな調度と、ブナコや津軽こぎんのモドコをインテリアにあしらい、桜咲く珈琲の街に出現したスターバックス弘前公園前店は「美しすぎるスタバ」としてSNSで拡散され、世界中から注目を集めました。

これまで素通りされていた建造物が、市民にとって心地良い場所として、そして街の新たなランドマークとして機能し始めたのです。

同店を出て右手に隣接する弘前市庁舎もまた、日本のモダニズム建築を牽引した前川國男の作品として国内外から高い評価を得ている建造物です。

改めて眺めてみると、2階と4階部分は庇のように張り出し、在来工法の柱と梁のように組まれたコンクリートと煉瓦の外壁との対比は、半世紀余を経た今でも古さを感じさせず、周囲を彩る四季折々の景観と調和するシンプルなデザインです。

また、開放的なエントランスホールや青い天井、赤い内壁など、当時の常識から考えると庁舎として違和感を抱くデザインに思えますが『ハイカラな街弘前』だからこそ実現したのかもしれません。

《弘前に生まれると、ゆりかご（役所への出生届）から墓場（斎場）まで前川國男の世話になる》と言われているそうですが、確かに病院、学校、市民会館、博物館など多くの前川作品がごく自然に日常生活の中に溶け込んでいることを実感します。

進学で上京したばかりの頃、よく上野公園で同郷の友人たちと待ち合わせました。

国立西洋美術館や東京文化会館を眺めながら津軽弁で語らっていると、まるで弘前公園にいるようで、都会の喧騒を忘れホッとした気持ちになったことを思い出します。

当時は、コルビジェや前川國男といった名前すら知りませんでしたから、無意志的記憶からどことなく居心地の良さを感じていたのでしょう。

そう考えると、弘前の街そのものが私にとってサードプレイスなのかもしれません。

◇同窓会だより

各校同窓会が幅広い活動で交流

平成27年度より、学園同窓会総会が、三年ごとの開催になり、大学、短大栄専、高校の各同窓会の活動がより活発になっています。

大学同窓会では同窓生の親睦を深める目的で年に一度、さまざまな分野の講師を招いて同窓の交流を深めています。10月24日には弘前市を中心にヨガの魅力を広めている Refresh yoga の齊藤京美先生を招きダイエットヨガ教室を開催しました。

短大・栄専同窓会では、8月29日の総会後に、栄専卒業生の弘前古文書解読会会長木村守克さんが、津軽藩にまつわる食文化について講演を行いました。また、10月の学園祭では齊藤珪子さんの木目込み人形の展示がありました。

高校同窓会も8月16日に総会を実施し、懇談会を屋外でバーベキューをしながら行うなど、各校とも工夫をこらして同窓の輪を広げる活動を進めています。

大学同窓会のヨガ教室。背筋がピン！

先輩からのメッセージ

◎東北女子大学家政学科 平成24年卒

矢野 美智

卒業後、秋田県の学校栄養士として採用され、四月からは念願だった栄養教諭の勤務が始まります。現在は給食センターで厳しい衛生管理の下、食物アレルギーなど「食」に関する多様な問題をクリアしながら幼稚園、小・中学校の約700食を担当しています。

昨年「生活習慣病の予防」を題材に研究授業を行い、指導案作成やアクティブラーニングの実践など多くのことを学びました。食育は、現在関わっている子ども達だけではなく、次の世代にも繋げる責任があると考えています。今後もいっそう先生方と連携を図りながら、学校全体で食育を推進できるよう頑張ります。

（由利本荘市西目学校給食センター栄養士）

◎東北栄養専門学校 平成22年卒

佐々木 裕樹

現在、病院で管理栄養士として患者さんの栄養管理、栄養指導を担当しています。患者さんの病気に対する考え方や捉え方には違いがあり、「食事療法や運動療法に充てる時間がない」といった自己管理に消極的な考えの人も少なくありません。いかに現実的で実行可能な目標を提案していけるかが栄養士としての実力が問われるところです。

卒業と同時に栄養士の資格は得られますが、それはゴールではなくスタート。今後も患者さんにより適切な提案ができるよう、栄養に関連する様々な資格を取得することが私の目標です。

（黒石厚生病院管理栄養士）

教育と研究

「新制度における保育と教育の問題を考える」全保養協の東北大会が開かれる

全国保育士養成協議会の東北ブロックセミナーが、11月7、8日の2日間、東北女子大学で開催され、約120人が参加しました。

基調講演では神戸大学大学院の北野幸子准教授が講師を務め、今年度から始まった「子ども・子育て支援制度」の実情と問題点にふれ、考えを述べました。

続くシンポジウムでは、東北女子短期大学の島内智秋教授、第三千葉幼稚園の岡本潤子園長、秋田県教育庁北教育事務所の浅野直子指導主事が、それぞれ養成校、現場、行政の立場から質の高い保育士養成のあり方や重要性について提言。

二日目は東北女子短期大学佐々木典彰准教授らによる個人発表3件、共同研究発表等があり、テーマに一貫した内容の濃い研修会となりました。

研究発表をする佐々木先生

日本教師教育学会　第25回研究大会で発表

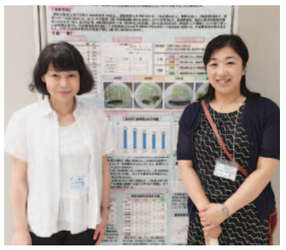
大会は、平成27年9月19・20日に信州大学で開催され、東北女子大学の小澤熹学長、山﨑祥子教授、崎野三太郎准教授、吉田裕美子助手の研究チームが、第17分科会で「学校教育体験実習Ⅰ・Ⅱに関する実践研究2～学生と教員に対するアンケート調査及びテキストマイニングから～」のテーマで、発表を行いました。参加者の関心は高く、50分間の発表で活発な質疑応答がありました。

今回の発表は一昨年の発表に続くもので、大きな違いは体験実習Ⅰ・Ⅱとも、学生の自己評価と実習先教員による他者評価との比較分析を行った点にあります。自由記述についても、両者の表現文をテキストマイニングで比較分析した結果や、両者の評価値、評価構造等に特徴的な違いが見られる要因等について発表しました。これまで学生と教員の評価を同時に分析する研究はほとんど見当たらず、今後の教員養成に大きな示唆を与える内容で注目されました。

日本調理科学会平成27年度大会でポスター発表

大会は、平成27年8月24・25日に静岡県立大学で開催され、東北女子短期大学の北山育子教授、安田智子講師、澤田千晴助手、宮地博子助手の研究チームが「栄養士養成校の学生における調理実習の指導方法に関する研究（第3報）～胡瓜の薄切りに見る包丁技術の向上について～」をテーマにポスター発表を行いました。

発表では、習熟度の低い学生の包丁技術向上のためには、実技テストを通して客観的に技術向上を受け止める他に、教員が食材を押さえる手を包丁の腹に接触させて切ることを意識させることが重要であると述べ、同じ悩みを持つ先生方と指導方法について活発な意見交換を行いました。


北山育子先生、安田智子先生

2016　東北女子大学・東北女子短期大学　紀要54号　掲載論文

小澤　熹・山崎　祥子・崎野三太郎・吉田裕美子
：「学校教育体験実習Ⅰ・Ⅱ」に関する実践研究2
—学生と教員に対するアンケート調査及びテキストマイニングから—

佐々木　隆：星の王子さまと宮崎駿を考える
～コミュニケーションの社会学から～

高橋　信進：「教育即生活」の背景に関する一考察

一戸　智之：教員養成課程におけるピアノ基礎技能獲得のための効果的な訓練用教材の活用
—ブラームス・ビシュナ・ベートーヴェンによる練習曲の特性とその教育的意義—

杉本久美子：『ハワーズ・エンド』と『最後の九月』の比較からみる
フォースターとボウエンの関係性について

前田　朝美・齋藤　望・今村麻里子
：家庭で利用するだしの種類と味覚

工藤　寧子：夫婦の家事分担遂行に関する文献調査

諏訪　才子：発声法についての実践的・教育的考察　—姿勢、呼吸法、共鳴を中心に—

福士　章子・太田　誠耕
：高等教育機関における学生支援について

森川　夏乃：子どもの心身症に関する研究動向と課題

花田　玲子・出口佳奈絵・山田和歌子・田中　夏海・前田　朝美
：管理栄養士養成課程における入学前教育の必要性

保村　和良：明治初期の国内留学事情（その2）
—洋学修業を志した津軽のサムライたち　静岡藩と敬応学舎との交流—

藤田　晴央：新美南吉の詩　～〈感傷〉と〈心の日なた〉

島内　智秋：保育の質向上への取り組みに関する一考察（第1報）
—弘前市内保育施設の保育環境調査より—

笹森　雅子：学生の教育メディアの利用と意識
—教育実習における視聴覚教材の利用から—

小林由美子：養成校における学生の歌唱経験に関する一考察　その2
—子どもの歌のアンケートをもとに—

宮野　洋子：インクジェットプリント布地活用に関する研究（第1報）
～染色堅ろう度の観点から～

小山　尊徳：ＩＣＴ活用による反転学習の課題と可能性について

兼平　拓道：バブル期のコーポレート・ガバナンス　—株主のモニタリング—

佐藤　睦子：本学学生（生活科1年次）の運動習慣に関する実態と支援プログラムの試案

兼平　友子：就学後の教育における子どもへの支援・援助のあり方についての考察

安田　智子・北山　育子・澤田　千晴・宮地　博子
：栄養士養成校の学生における調理実習の指導方法に関する研究（第3報）
—胡瓜の薄切りに見る包丁技術の向上について—

鎌倉ミチ子：昭和前期の青森県における栄養士のあゆみ

地域交流

伝統的に地域との交流を大切にしてきた柴田学園。
今年も公開講座、郷土料理伝承会、産学官連携事業、ボランティア活動、出前講座を通して多くの人々との出会いがありました。

公開講座

おさかな食育クッキング

11月21日、東北女子大学1階調理学実習室において、今村麻里子・花田玲子・山田和歌子先生による「おさかな食育クッキング～旬の魚いただきます♪～」が開催されました。

これは弘前丸魚さんとの合同企画で、青森県の食育を充実させるため、栄養たっぷりの魚を紹介し簡単でおいしい料理を作ることを目的としたものです。当日は年6回シリーズの4回目として約40名の参加者のもと実施されました。

メニューは「鯖のソテーアップルジンジャーソース、白子のクリーム煮、蛸ときのこの和風アヒージョ」の3品。食育サポート部の学生も応援に駆けつけ、鯖の三枚おろしに挑戦する小学生を見守るなど、会場は終始笑顔に包まれていました。

「三枚おろしって難しいな」

マナーを詳しく知ろう！

11月28日に東北女子短期大学工藤のぶ先生の「マナー講座」が行われました。最初にマナーとは「コミュニケーションを円滑にするための社会的なルールである」という本質にふれ、日本の礼儀作法には無駄のない動きと洗練された美しさがあり、先人の知恵がつまっている、と話しました。そのあと受講者同士でお辞儀や立ち居振る舞いなどを実践しました。

今回は留学生や高齢の方まで参加者の層が広く、受講生からは「漫然と知っていたことを詳しく知ることができた」「相手に敬意を表すマナーの基本は、いつの世も同じであることが確認できた」との感想がありました。

コラボ企画

郷土料理を通じた交流で身も心も温まる

1月16日に黒石地区広域生活改善グループ協議会の方々14人を迎えて郷土料理伝承会が行われ、東北栄養専門学校の2年生32名がゴマごはん、赤魚の白煮、かぼちゃ餅など津軽地方に伝わる料理を5品作りました。

産学官連携事業

コンピュータ校の生徒がWEBサイト制作に挑戦

地元のバスや電車など交通機関の活性化を図る目的で8月に設立された「弘前市公共交通コンソーシアム」のWEBサイト制作に、東北コンピュータ専門学校1年生5名が挑戦しました。これはコンソーシアムから直接依頼があったもので、構成内容はコンソーシアムの設立目的から活動報告、イベント案内、お得切符案内など多岐にわたります。生徒達は地元を盛り上げようと、今まで勉強した技術をフルに活用して、半年をかけて納得のWEBサイトを完成させました。WEBサイトは左記アドレスからご覧になれます。

http://hirosakipt.wpblog.jp/

ボランティア活動

家庭クラブが「松山荘」でボランティア活動

柴田女子高校の家庭クラブは、弘前市百沢にある特別養護老人ホーム「松山荘」で毎年ボランティア活動を行っています。

今年も12名が、10月31日に車いす磨き、部屋の掃除、食器洗い、裁縫などを手分けして行いました。

その後に行ったレクリエーションでは一緒に歌を歌ったり、名前あてゲームやボール送りゲームをして入居者の方々と楽しくコミュニケーションを取ることができ、喜ばれました。

「あなたのお名前は？」

出前講座

東北女子大学 出前講座

12月8日、七戸高等学校において東北女子大学の佐々木隆先生、土谷庸先生、福士章子先生による出前講座が行われました。これは2年生を対象に開催され、大学の講義を聴講することにより、進路への興味関心を高め、課題発見や研究調査方法の考案、記録や表現学習の参考とするものです。本講座は大学で行う講義の約半分の50分間で実施されました。

佐々木先生は「宮崎アニメを読む～自立へのメッセージ」、土谷先生は「栄養学と日常生活～ダイエット・スポーツとの関連等～」、福士先生は「こんにちは！赤ちゃん～新生児人形を使って沐浴、おむつ交換等～」と、それぞれの専門領域に関する内容をわかりやすく授業し、高校生の興味をひいていました。

福士先生の「こんにちは 赤ちゃん」

短大保育科「こどもクリスマスフェスティバル」を終えて

東北女子大学

今年度も好調！ 教員採用試験

昨年秋に行われた採用試験の結果、小学校では神奈川県に4名、千葉県3名、埼玉県とさいたま市に各1名の計9名が合格しました。

また、中学校（家庭）では、2年連続で相模原市へ1名が合格しています。嬉しい報せに、学内は大きな喜びに包まれました。

チームワークで広がる文化部活動の場

10月24日、五所川原市の「特別養護老人ホーム青山荘」に吹奏楽部29名が慰問に出かけ、迫力ある演奏と合唱を披露し、会場には大きな拍手が沸いていました。

また11月22日には、児童学研究部が弘前文化センター大ホールで「市民文化祭人形げきまつり」に参加し、オペレッタ「ピーターパンのぼうけん物語」を発表。両部ともチームワークを大事にしながら、今後も技術向上に努めたいと話していました。

児童学研究部

吹奏楽部

柴田女子高等学校

バスケットボール部 全国高校選抜大会初戦突破

12月23日～29日に第46回全国高等学校選抜バスケットボール大会が東京体育館で開催されました。3年前ウインターカップで全国ベスト8になった実力をもつ本校バスケット部！ 初戦は佐賀清和高校と対戦し、前半リードを許したものの64対53で逆転勝利しました。

佐賀清和戦でシュートを狙う佐々木純麗（すみれ）選手

2回戦は、「体格・体力・技術」が勝る強豪・愛媛県聖カタリナ女子高校の堅い守りからシュートを奪えず、44対80で敗退しましたが、2年連続初戦突破の経験を生かして、来年また返り咲くことが期待されます。

県内高校スキー大会総合2位 回転・大回転で2冠達成！

平成27年度県高校スキー大会が1月10日～13日に、八甲田国際スキー場と大鰐スキー場で開催され、2年秦麗（はたうら）らさんが回転・大回転で初の栄冠に輝き、学校対抗でも総合2位に導く快挙でした。2月4日から県内で行われるインターハイへ向けて、「これからの練習を大事にして臨みたい」と意気込みを話しており、更なる活躍が期待されます。

陸奥新報社提供

インターハイ 速報!! 秦 入賞 大回転7位・回転10位

《県高校スキー大会》
回転1位・大回転1位 秦 麗ら
大回転3位 廣瀬 菜実
回転4位・大回転4位 蛯原 杏奈
回転5位 折口 美沙

東北女子短期大学

弘前市「二十歳の祭典」の司会 市民憲章朗読などで活躍

1月10日、弘前市民会館で「二十歳の祭典」が行われ、企画運営協力委員の児童学科2年の斉藤結華さんが総合司会を務めました。また、家政学科2年の三浦晴凪さんが1341人の新成人を先導し市民憲章を朗読したり、代表として記念品目録を受けたり、本学学生が活躍しました。

大役を終えた二人は、「成人式の企画・進行、記念品の選定など、実行委員としての責任の大きさに、緊張と不安でいっぱいでした。無事終えることができ、支えてくれた仲間や友人、たくさんの方々に感謝しています。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいと思います」と話していました。

自らの重責を果たしながら、人生の門出となる式典で、新成人としての自覚と決意を新たにしました。

記念品を受け取る、三浦晴凪さん

生活科2年りんご王国感謝祭「Cross・S」で活動

9月12・13日に弘前市吉野町緑地公園を中心に、弘前青年会議所主催のりんご王国感謝祭「Cross・S」が開催されました。

その中で生活科2年生が独自に開発したりんご料理「ちゃっかりりんご」「アップルレアチーズケーキ」「りんごムースメ」「りんごあんまん」を含む6品の販売を行いました。

7月に弘前青年会議所から依頼を受け、調理実習(2)の中でグループ一作品のレシピ開発・試食会を経ての販売でした。当日学生は朝早くから調理やブース設営をし、笑顔で接客、販売を行い大活躍でした。計画から販売までの流れを経験した学生にとって、充実した良い機会となりました。

専門学校

東北栄養専門学校 栄養士校外実習報告会を開催

2年生は、8月に老人福祉施設や病院などの協力を得て2箇所で計2週間の校外実習を行い、10月18日に実習先の栄養士さんや保護者を招き実習報告会を開きました。生徒たちは発表に至るまで相手に伝える大変さを学んだようで、報告会を通して改めて日々の行動が業務に繋がっていることを実感していました。

2年佐藤宇真（たかまさ）さんは、「楽しそうに食事をする利用者さんや、真剣に栄養指導を聞いている患者さんの姿を間近に見て、現場で活躍する管理栄養士、栄養士の役割の素晴らしさを感じました」と報告。五所川原市にある実習先の増田病院管理栄養士古川寛美先生は、「指導内容をきちんと把握できていたので安心しました」と語っていました。

老人施設で嗜好の聞き取り

回転・大回転で2冠を達成した秦さん

柴田幼稚園

盛大に行われた第30回音楽発表会

11月14日に30年の節目を迎えた音楽発表会は、東北女子大学一戸智之先生の華麗なピアノ演奏でオープニング。続いて、ホールいっぱいに見守るお客様の前で、子ども達が歌や合奏を披露し、かわいらしさの中にもしっかりとした演奏をして日頃の成果を発表しました。

最後は前園長西谷紀久子先生指揮による教員の合奏「剣の舞」で勇壮にしめくくり、30回記念にふさわしい発表会となりました。

子どもたちのために ありがとう！

10月24日に行われた東北地区教員研修山形大会で、伊世歌織先生と神山圭子さんに、全日本幼稚園連合会より永年勤続賞が贈られました。

伊世先生は短大卒業後教職に就き24年、神山さんは創設者今村敏園長の時代から事務職に励み41年。長きにわたって子ども達や父母の方々を支え、尽力された功績が認められたものです。

伊世歌織先生、神山圭子さん

東北コンピュータ専門学校

1月28日に卒業研究発表会が行われる

今年は、プロジェクションマッピングを使って学校紹介作品に仕上げたチーム、データ全体をPCに取り込めないほどのビッグデータを処理する方法にチャレンジしたチームなど盛りだくさんで、来場者からの質問や意見も多く、活発な成果発表となりました。特に、脳波が測定できるヘッドギアを改良して使用した目覚まし時計アプリは、運転者の居眠り防止にも応用ができると高度な研究内容に皆、感心した様子でした。

目覚まし時計アプリを説明する生徒

各ゼミのテーマ

1. 情報通信を利用した家電の制御（熊谷ゼミ）
2. iBeacon とスマートフォンを使用した出席確認システム（三上ゼミ）
3. シェルスクリプト化によるビッグデータの一括処理（八重樫ゼミ）
4. 聴覚障害者支援アプリ（佐藤ゼミ）
5. ポータブルプロジェクションマッピングの課題（木村ゼミ）
6. 脳波を利用したスマートアプリ（八重樫ゼミ）

弘前市「こどもクリスマスフェスティバル」に出展

12月23日の祝日にヒロロ3階の会場ブースに保育科1年生6名がクリスマスリース作りを出展しました。学生は新聞にクレープ紙を巻いてリースを厚くしたり、松ぼっくりや枝に金銀の着色をしたり、サンタ・トナカイを色画用紙で準備したりして、子どもが自分で描けるようにするなど、子どもへの思いが溢れる工夫をしていました。

当日は予想した30組をはるかに超える70組の親子が参加。完成する度に大歓声と拍手が起こり、出来上がった子は照れながらも嬉しそうでした。学生は保護者から「うちの子の先生になって！」と褒められ、手ごたえ十分のイベントに笑顔を輝かせていました。

どんなリースにしようかな？

Topics

柴田女子高校に新調理室が完成！ 将来は「調理師養成」も視野に

12月17日、旧東北女子大学校舎を改修した柴田女子高校の新調理室が完成しました。

この施設は家政科の「調理食育コース」専用となる予定で、将来の調理師養成も視野に入れて、職員室・調理準備室・保健室・更衣室・2Fトイレを新設しました。

9台の調理台は30人程度の調理実習が可能で、実習はもちろん地域との交流やクラブ活動等での活用が期待されます。

広々とした新調理室で、授業を受ける生徒たち